

学び舎の下に眠る遺跡 —山形西高敷地内遺跡—



第5次発掘調査説明会

期日：2011年7月4日(月)～7月20日(水)
会場：村山総合支庁玄関ロビー

主催：(財)山形県埋蔵文化財センター

やまがたにしこうしきちないせき
 山形西高敷地内遺跡の発見は、昭和51年(1976)の校舎改築に際して縄文時代中期の土器片が出土したことによります。その後、平成16年(2004)までに施設整備に伴う7回の発掘調査が行われました。その結果、縄文時代中期(5000年前)～晩期(2000年前)、弥生時代中期、古墳時代前期、奈良・平安時代の遺構と遺物、近世の陶磁器などが出土しました。同じ場所に縄文時代中期から断続的に人々が生活を営む、県内でも稀な複合遺跡であると考えられています。



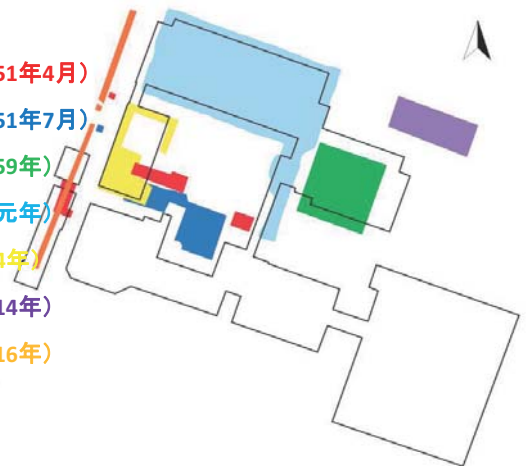
山形西高等学校の航空写真



第4次調査で見つかった竪穴住居跡

調査区

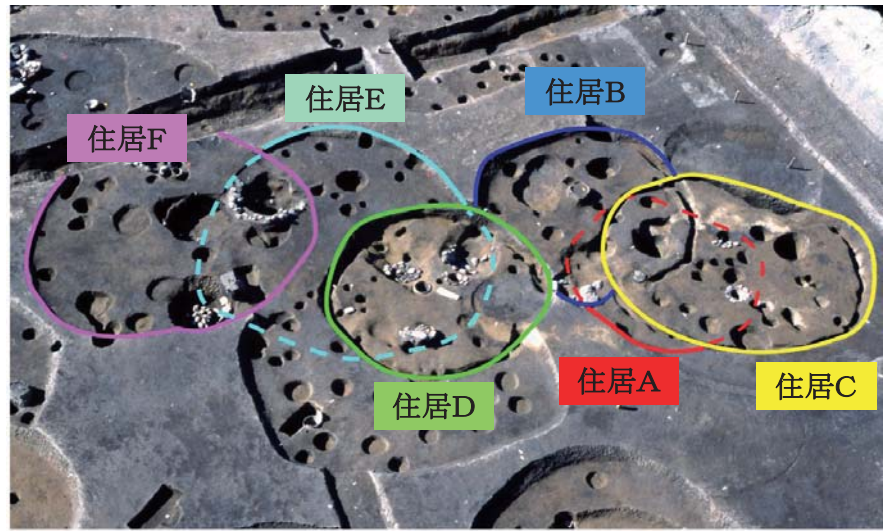
- 第1次調査(昭和51年4月)
- 第2次調査(昭和51年7月)
- 第3次調査(昭和59年)
- 第4次調査(平成元年)
- 第5次調査(平成4年)
- 第6次調査(平成14年)
- 第7次調査(平成16年)



第4・5次調査(平成元年・平成4年)

重なった竪穴住居跡

第4次の発掘調査では、竪穴住居跡が76棟見つかっています。そのうち縄文時代(中期)が48棟、古墳時代が3棟、奈良・平安時代が25棟となっています。右の写真はいずれも縄文時代の竪穴住居跡ですが、その重なり方から住居A→住居B→住居C→住居D→住居E→住居Fの順につくられたことがわかります。なかには土器と石を組んで作られた複式炉(煮炊きや暖房、照明等のために火をたいた場所)が見つっています。



竪穴住居跡で見つかった複式炉跡



注口土器(縄文時代)



土偶(縄文時代)



磨製石斧(縄文時代)



有孔石製品
(穴のある石製品)



土器(古墳時代)



鉢(古墳時代)



土器の出土状況(古墳時代)